

河合町人口ビジョン《概要版》

期間：平成 27 (2015) 年度～平成 72 (2060) 年度

人口ビジョンは、今後の中長期的な人口推移が与える様々な影響について分析するとともに、人口に関する認識を町民と共有し、目指すべき将来の方向と将来の人口展望を示すものです。

また、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を踏まえ、今後目指すべき人口の将来展望を示すとともに、その目標実現の方策を定める「河合町街再生総合戦略」の前提となるものです。

なお、「河合町人口ビジョン」と「河合町街再生総合戦略」は、全分野を横断する基本的な考え方を前提に、人口減少対策に特化した戦略とします。

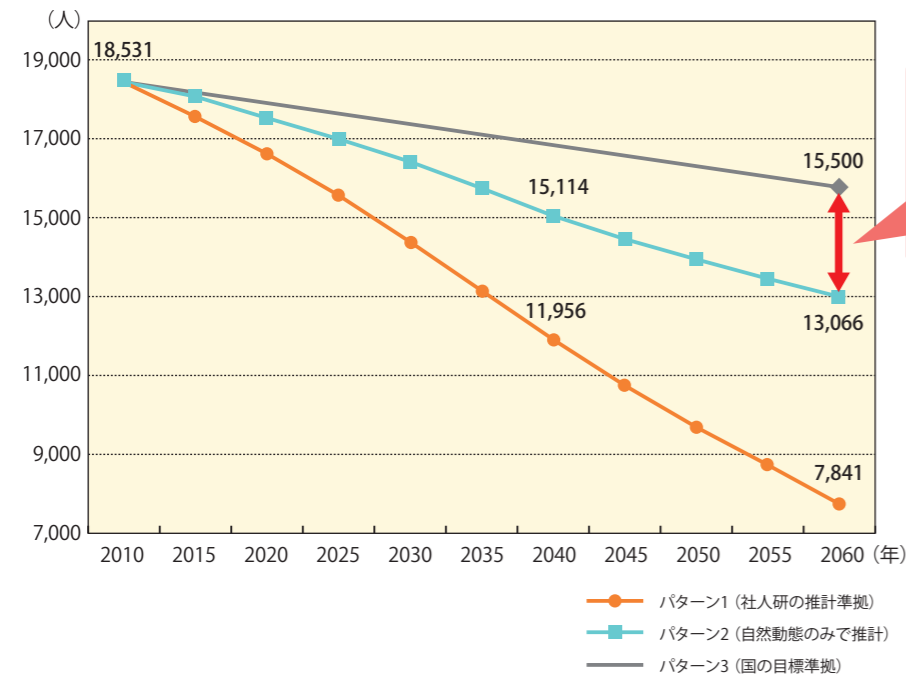
人口推計

出生及び移動についての推計パターンを設定し、2020年以降2060年までの将来人口について次のように推計しました。

＜推計のパターン＞

パターン	合計特殊出生率	社会移動
パターン① (社人研の推計準拠)	2020～2040年は国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の値とし、その後は同水準で推移すると仮定	全国の移動率が2040年まで一定程度縮小し、その後同水準で推移すると仮定
パターン② (自然動態のみで推計)	2060年までに人口置換水準(2.07)まで上昇すると仮定	移動が0(均衡)で推移すると仮定
パターン③ (国の目標準拠)	国の目標(2060年人口1億人)に準拠した推移を河合町に当てはめた場合	

総人口の推計シミュレーション



国が目指す2060年人口1億人とした場合、河合町では約15,500人の人口を維持することになる。

子育て世代の転入が不可欠!!

人口の将来展望

人口の将来展望としては、現人口の置換水準となる合計特殊出生率を2.07まで伸ばし、社会移動による増減がないと仮定した場合の推計において、河合町の人口は2040年に15,114人、2060年13,066人となります。

しかし、社人研推計に準拠した推計値によると、2060年には7,841人まで減少するという推計結果をも踏まえ、将来人口に関わる状況を注視していきます。

また、国が2060年で人口1億人を目指し、人口減少を抑制しようとしているなかで、こうした人口減少抑制目標を考慮すると、2060年における本町の人口は約15,500人を確保・維持していくことが必要になります。

そのためには、若者世代の転出超過動向を抑制するとともに、Uターンを中心とする本町への回帰を促すなどの取組が必要です。

2060年に15,500人の人口を確保するために必要な子育て層人口の試算

総人口の推計シミュレーションでみたように、国の目標に準拠した推移を河合町に当てはめた場合の推計(パターン③)とパターン②には大きな差があります。子育て年齢層を20～40代とし、この差を埋めるために必要な子育て年齢層の年間増加人口は、次のように試算されます。

パターン②とパターン③の差	2016～2020年	2021～2025年	2026～2030年	2031～2035年	2036～2040年
	0人	46人	85人	115人	136人
差	2041～2045年	2046～2050年	2051～2055年	2056～2060年	
	150人	162人	179人	201人	

2021～2025年のパターン②とパターン③の差は、5年間に20～49歳で46人、最終的に2056～2060年では201人になります。

将来展望の実現に向けた取組の方向性

以上のような推計結果を考慮し、当面は社会移動による人口減少対策に重点を置き、次のようなことを踏まえた取組が重要であると考えます。

- ア 転出抑制(定住促進)
- イ 転入促進(移住促進)
- ウ ターゲットの絞り込み(①子育て層・シニア層、②Uターン、③女性目線)
- エ 河合町の特性及び財産を活用

こうした取組を通し、多様な世代が暮らす街づくりを進めることによって、人口循環基盤を備えたまちとしていくこととします。

人口置換水準とは、長期的に人口が増加も減少もしない出生水準です。現在の人口を維持するのに必要な合計特殊出生率は2.07といわれています。



河合町街再生総合戦略《概要版》

期間：平成27（2015）年度～平成31（2019）年度



この総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の総合戦略と「河合町人口ビジョン」を踏まえ、本町の街再生（地方創生）に向けた基本目標や施策の基本的な方向をまとめたものです。また、基本目標の数値目標や、各施策の効果を客観的に検証できる重要業績評価指標（KPI）を定めています。

総合戦略の目標

5 年間の人口減少対策である街再生総合戦略は、本町の長期ビジョンである夢ビジョンに沿って策定するため、総合戦略の目標は夢ビジョンの5つの『目標（想い）』とします。

目標1 活気 『活気のある河合町になって欲しい』

目標2 絆 『絆でつながる河合町になって欲しい』

目標3 誇り 『誇りを持てる河合町になって欲しい』

目標4 魅力 『魅力が光る河合町になって欲しい』

目標5 自立 『地域主権確立のために』

目標1 活気

わたしたちのまちは、良好な住宅地とそれに付随する生活関連機能がコンパクトに配備され、「大型商業施設」「商業、飲食サービス業」「生活関連サービス業・娯楽業」といった都市型の生活機能が集積しています。

また、開業医などの身近な医療・福祉機能も整備されています。

さらに、イオンシネマなど、若い世代を呼び込む娯楽施設が立地しているほか、県立馬見丘陵公園が整備されているなど、多世代のニーズに応えることができ、周辺地域から人々を呼び込むポテンシャルを備えています。

今後、少子化対策を含め、人口減少対策を推進するために、こうした潜在的な立地特性をクローズアップして街再生を展開します。



目標値

指標項目	基準値	目標値
社会増減（転入転出数の差）	△73人/年（H25）	0人/年（H31）

重点施策

転入者支援事業（Uターン促進）／特色ある教育 ほんまもんの英語教育／ICT教育環境の整備／住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業の継続／たんぼの菜耕（荒廃農地活用事業）／子育て親子の集いの場「絵本図書館」と既存図書館の充実／町内転居者支援事業（定住促進）

その他の施策例

法隆寺インターの走行距離に応じた料金化／池部駅～県立馬見丘陵公園に通じる緑道付近にコンビニ誘致／学業・スポーツ・芸術才能の育成「スーパー学童保育」の誘致／近鉄最終電車延長 ※沿線町で連携／認定こども園の整備と子育て支援政策 ※別途計画／URとの連携強化（近居促進等）／市街化区域内未利用地の有効活用 ※別途計画／都市計画の見直しと土地の有効活用 ※別途計画／馬見丘陵公園を中心としたまちづくりと活性化 ※別途計画

目標2 絆

わたしたちのまちは、人口増加の時代から減少基調に転換するとともに、少子高齢化が進んでいます。これは、わが国の大きな流れでもあり、今後さらなる少子高齢化が進むと考えられます。わたしたちのまちでは、こうした社会環境に対応して、すべての世代の人々が住みよい街づくりを進め、多世代が集い暮らすコミュニティを再生していきます。

鉄道やバスなどの幹線交通へのアクセス性が高く、開業医や歯科医などの身近な医療施設が多く、大規模公園が整備されるなど、コンパクトシティとしての基盤が整ったわたしたちのまちは、住みやすい環境の町でもあります。

また、退職後の人生を謳歌するために、この町に移住し、暮らしていくための受け皿となるコミュニティが存在するなど、国が求めているCCRC（コンティニューイング・ケア・リタイアメント・コミュニティ）の条件を備えていることにも着目し、多様な世代が暮らしやすい町を目指します。



目標値

指標項目	基準値	目標値
自治会加入率	90%（H27）	95%（H31）

重点施策

河合ふるさとの日「夏」／河合ふるさとの日「冬」／福祉のワンストップサービス（スーパー包括支援センター）／子育てサロン充実事業／同窓会応援します事業

その他の施策例

防火防犯のための住宅機器購入費助成／防災行政無線のデジタル化

目標3 誇り

わたしたちのまち、そしてその周辺には豊富な歴史・文化資源があり、伝統的な家並の集落が残されています。

また生活をする上で、便利で快適な都市機能が整っており、「都市機能を有する田舎」として魅力あふれる町です。

わたしたちのまちで育つ人々が、河合町を誇りに思い、このまちに住んでいることに喜びを感じられるまちづくりを進めていきます。



目標値

指標項目	基準値	目標値
河合町に住み続けたい人の割合（街再生に関するアンケート結果）	76%（H27）	80%（H31）

重点施策

近鉄3駅ホームにポスター掲示板の設置
近鉄池部駅の車内アナウンス
ラジオ体操の普及強化
奈良交通バス停標識に「すな丸」
漫画で河合のまち再現事業

その他の施策例

ソーシャルビジネス支援事業（人やグループの交流の場の確保）

目標4 魅力

わたしたちのまちには、幼児保育教育施設から小学校、中学校、高等学校などの教育施設が整備され、質の高い教育環境が確立されています。

その他にも他市町村にない質の高い居住環境が整っています。

この魅力を強く発信し続け、Uターンだけでなく、将来のIターンやJターンによる移住・転入を促進していきます。



目標値

指標項目	基準値	目標値
夢ビジョン事業例の達成数	27事業（H27）	100事業（H31）

重点施策

イオンシネマ優待券
「日本史のアドバンテージあります」事業
西大和学園主催公開講座
自治会ニュースコンクール
河合のまち貸します/あなたの企画買います事業

その他の施策例

旧庁舎の改修と利活用
すな丸でPR力強化
「ほたるが飛び交う街：かわい」推進事業
文化財活用地域活性化事業

目標5 自立

まちのあり方について町民一人ひとりが自ら考え、主体的に行動していくことは極めて重要なことです。

わたしたちのまちは、この町に住む住民が責任を持って課題に対処し、解決していくことで、自立した地域社会を目指しています。

そのため、町民と行政が対等なパートナーシップの関係を確保し、町民と行政が主体的かつ総合的に地域の諸課題に取り組んでいきます。



目標値

指標項目	基準値	目標値
夢ビジョン事業例	285事業（H26）	400事業（H31）

重点施策

街再生総合戦略推進体制①（所管体制）
街再生総合戦略推進体制②（移住定住促進等相談窓口の設置）
街再生総合戦略推進体制③（ホームページ改修）
街再生総合戦略推進体制④（空き家利用促進キャンペーン等）
街再生総合戦略推進体制⑤（空き家利用促進：空き家貸します）
豆山の郷の名称変更「総合福祉会館（豆山の郷）」→「河合のいえ（豆山の郷）」
SNSを使った情報発信

その他の施策例

「そうだ、やっぱり河合で暮らそう！」パンフレットの活用
住民票等の土日交付
新生児へ実用的な「すな丸グッズ」の提供
パナホーム株式会社との連携協定・勉強会による政策の実践
他市町村と連携した事業展開